

理科授業改善推進プラン

1 学力効果測定結果

- ・全学年において、全観点の正答率が平均を下回っている。基礎知識の定着率が低いため、活用問題の正答率も目標値と10ポイント以上の差が見られる。
- ・第4学年では、活用の問題で目標値を15ポイント以上下回っている。すべての領域で目標値を下回っている。内容別に見ると磁石の性質の正答率が極端に低い。
- ・第5学年では、活用の問題で目標値を15ポイント以上下回っている。ほとんどの領域で目標値を下回っている。内容別に見ると自然の中の水の正答率が極端に低い。
- ・第6学年では、ほとんどの領域で目標値を下回っている。内容別に見ると魚の誕生は目標値・区平均を上回っているが、植物の花のつくりと実の正答率が極端に低い。

2 児童の実態及び学習効果測定の結果分析（課題）

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
		・実験や観察には意欲的に取り組むが、知識が定着していない。 ・実験や観察を通して得た結果から、考察すること、新たな問題を設定することを苦手とする児童が多い傾向がある。	・実験や観察には意欲的に取り組むが、知識として定着していない。 ・実験や観察結果をまとめる過程を丁寧に言い、知識の定着を図り考察する力を高めていく。	・見通しをもって、実験や観察を行うとともに、それぞれの単元で押さえておくべき知識の定着が十分に図れていない。 ・校内正答率が目標値を大きく下回っている。	・校内正答率が目標値より大きく下回っている。 ・人のたんじょう、植物の花のつくりと実、流れる水のはたらき、ふりこのきまりにおいては、正答率が低い。 ・魚のたんじょうにおいてはどの問題も目標値、全国正答率ともに上回っている。

3 課題や授業の改善策

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
知識・技能			・実験や観察を通して得た経験と、習得すべき知識とを結び付けて学べるようにする。 ・実験・観察後のまとめを行う際には、十分に時間をとる。 ・写真や映像教材を活用し、知識の定着を図る。	・体験的な学習を通して、空気、水及び金属の性質、電流の働きについての理解を図る。 ・実験だけでは理解しづらい結果については、電子黒板で動画を見せるなどして補足し、知識の定着を図る。	・教科書を徹底活用する。 ・教科書をもとに実験結果をノートにまとめたり、教科書の資料から必要な情報を読み取ったりする活動を増やす。 ・理解の度合いを確かめることができるように、学習プリントを活用し、知識の定着をはかる。	・教科書を徹底活用する。 ・実験や体験の機会を多く設け、確実に技能を身に付けることができるようにする。実験についての結果を自分の言葉でまとめられるようにする。 ・単元の終わりなどに、学習プリントやタブレットドリルといったものを活用し用語やまとめを再度確認する。
思考・判断・表現			・実験や観察を通して分かったことを日常生活に当てはめて考える学習活動を設定し、そこから差異点や共通点を見だし、新たな問題を見出す力を養うことができるようにする。	・グループ活動やペア活動を取り入れることにより、ある現象が起きた理由について明確に説明する機会を増やす。 ・観察、実験などで、分かったことと自然の事物・現象とを結び付けて説明できるようにする。	・実験結果から分かったことをまとめていく過程を丁寧に言う。 ・実験や観察を行った後に、実験の過程や結果、考察を児童にとって分かりやすい資料を提示する。また、考えを交流する機会を設ける。	・実験や観察を行った後に、実験の過程や結果、考察を児童にとって分かりやすい資料を提示する。 ・どのようにしたら正確な結果が得られるかについて、グループ学習を通じて考察が深まるようにする。
主体的に学習に取り組む態度			・身近な話題と学習内容を結び付け、学習に取り組む目的をもてるようにする。 ・学習を振り返る際、相手に説明したり、自分の理解度を振り返ったりする学習活動を設定し、自分自身の学びを自覚できるようにする。	・既習の学習と結び付けて、そこから新たにどんな変化があるのかという問いをすることで児童の興味・関心を高める。 ・実生活との関連を意識させ、主体性を高める。	・タブレットでの調べ学習の機会を設け、関心をもったことを進んで学習することができるようにする。 ・学習の過程で、自分の考えを伝えあったり、理解度を振り返ったり、学習感想を書いたりできる機会を設ける。	・実生活との関連を意識させ、関心・意欲を高める。 ・学習の過程で、自分の考えを伝えあったり、理解度を振り返ったり、学習のまとめや学習感想を自分自身で書いたりできるようにする。

※重視する内容は、網掛けで強調する。